

平成28年度 学校評価シート

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 夏目 康 弘

目指す学校像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校
育てたい生徒像	幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標			
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいる。しかし、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習も疎かになりがちである。そのためアクティブラーニングなどを取り入れ、生徒たちが主体的に学習するように意識づけることが必要と考えられる。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。 生徒の主体性向上のため、方策が取られているか。 科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。	上富田町の小中高連携での授業研究でアクティブラーニングを行い、積極的に各教員が参加し、異校種からの多角的な視点を取り入れ各自の授業力向上を図る。 家庭での学習習慣の定着のため、定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。その一方で生徒による授業評価を実施する。 生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導を行う。	研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。 課題テストや小テストの実施 生徒による授業評価の実施 科目選択を実施するうえで、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。	B	上富田町での小中高連携授業研究は、本年度は本校でアクティブラーニングを中心とした授業研究を行った。授業者は緊張感をもって行うことができた。異校種からの多角的な意見をもらえた。 科目選択では物理的な理由で科目が開講できなかったり、抽選になったりしたが、できる限り生徒の希望が叶えられるようにできた。	アクティブラーニングを取り入れた授業を行うことで、主体的に学ぶ生徒が増えた。しかし、まだまだ積極的ではない生徒もいるので、授業中の声かけなどを工夫し、自ら学ぶように働きかける必要がある。 長期休業前に宿題を出し、長期休業明けには課題テストを行っているが、普段の家庭学習の時間が短い生徒が多い。普段から各教科で宿題を今より多く出したり、小テストを行うことで、家庭学習の時間を伸ばしていきたい。
2	総合学科では生徒の進路決定率が98.7%と昨年より上昇した。今年度もきめ細い進路指導を行い進路未定者を減らす努力をしていきたい。 専攻科においては36名の卒業生と33名の看護師国家試験合格者を出すことができた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力してきたい。	生徒の進路実現に向けての取り組みがなされているか。 生徒自身が自ら考え行動し決定する指導ができていくか。 看護科5年間の継続した指導が行われているか。	進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。 キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。 看護科においては卒業生の体験談や異学年との交流を通して進路に対する目的意識を高める。	実力テスト等での低学力者の10%減少。 インターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施。 生徒への継続的な進路指導の実施。	A	早い時期からの取り組みにより、進学・就職に関わらず概ね希望通りの進路実現がなされている。 すべてを自分で決定することは難しいが、担任や進路指導部との関わりの中で、自分の考えを言葉にし、活字にすることで考えをまとめることはできた。 看護科では、5年間を見通した継続的な指導がなされている。	公務員や看護専門学校を希望する生徒の中で、再チャレンジする者がおり、そういった生徒たちに力をつけさせる手立てが必要。また、低学力な生徒の割合は変化がなく、進学や授業などの連携が必要。 就職希望者の中でフリーターを選ぶ生徒は少ないので、一定の勤労観・職業観を高まっている。自分が何をしたいのか、何ができるのかといった自分を見つめ直す作業や指導が必要。
3	サポーターズリーダー部をはじめ農業クラブ・吹奏楽部・読み聞かせサークル等において地域に関わる多くの活動を行い、さらに上富田町と合同防災訓練を実施している。こうした活動の成果の共有化を図っていくが、さらに多くの生徒・職員員の参加を促す必要がある。	ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。また、取り組みの成果が校内で共有化できているか。 防災訓練を通して自らを守ることも、高校生として、地域でどのような行動を取るべきかを理解しているか。	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムズやアセンブリ等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。 上富田町と合同の総合防災訓練を行う。ホームルームやアセンブリにおいて適宜防災教育を行う。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年3回以上とする。 地域での活動を広報やアセンブリ時に積極的に取り上げる。	A	本分掌の直接的な取り組みではないが、ホームページ等の広報を通じて、生徒・職員員の地域に関わる意識は向上している。サポーターズリーダーの地域貢献が認められ、ボランティア団体に与えられる全国大賞を2つ受賞した。また今年度も上富田町との大規模な合同防災訓練を開催し、大規模災害の際、高校生として地域のために何が出来るかを学ぶことが出来た。	昨年度締結した上富田町まちづくり連携協定に基づき様々な地域貢献活動をおこなっているが、その多くがクラブ単位での活動であるので、今後は授業などでもより多くの地域連携が求められる。防災教育については生徒の自主的な活動を目指しているが、町との合同訓練ではサポーターズリーダー部員や看護科生徒が活動の中心となってしまうので、より多くの生徒が活動に加わるように訓練の内容を考えたい。
4	指導件数は少なく、暴力事象等大きな問題行動も減少傾向にあるが更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立を生徒全員が行えるよう、継続した指導を行っていく。 また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	頭髮服装指導 新入生宿泊研修 駐輪指導 遅刻・無断欠課防止週間 登校時自転車通学指導	学年アセンブリーで点検指導の後も指導を継続する。 校内巡視及び校門指導等の事後指導等を実施して行う。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。 些細な事象でも見逃さず継続した指導を行う。	A	学年集団(教師間)がしっかりとおり、秩序、連帯感が保たれた指導ができていく。生徒も学校、学年への帰属意識が高く挨拶、マナーの定着が出来ており、活気がある。	・継続していくことが課題と考える。挨拶を教師側もしっかり行い、マナー面では、敬語を話す場面をしっかりと指導していく。全校、学年アセンブリーで帰属意識をもたせる取り組みを行っていく。 ・些細な事象も見逃さず、未然に防ぐことに努める。

学校関係者評価	
平成 29 年 2 月 20 日 実施	学校関係者からの意見・要望・評価等
	学校評議員(熊高教育協議会)のみなさんから次のような声が寄せられた。「地域のために高校生の力が発揮されている」「町とのコラボの良さが生徒達のやる気につながって好循環が生まれている」「生徒達の姿を見て大変気持ちがいい。何より分かり易い成果だ」「地域から見えている熊高は、どの風景を切り取っても地域の誇りです」「町の活性化、勢いの醸成に寄与している」。これらの声より、熊野高校の学校教育、特に地域連携の部分に於いて高く評価されていることが伺える。これからも、地域の皆さんの期待に応えるべく、学校運営に取り組んでいきたい。 また保護者のみなさんからは、子供が楽しく学校に通っていること、社会性や規範意識が高まっていること、地域への貢献等を評価して頂いている一方、クラブ指導のあり方に関して、テスト期間中の練習、顧問の言動、練習時間、休み等について指摘を頂いた。また、環境美化、情報公開、交通マナー、アンケートのあり方等についてもご意見を頂いた。生徒からは、礼儀等の指導についての要望、指導の平等性、授業への要望等の声が上がっていた。これらの声を真摯に受け止め、クラブ顧問会議や各分掌の会議等で取り上げ、これからの学校運営に生かしていく所存である。